

平成17年度 試験研究(中間)評価整理表

整理表2

試験研究機関名 林業研究センター

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント	評価結果の反映状況(予算要求・手法・その他)
	施策目標	研究課題分類				初期	終期				
1	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	木質バイオマス利用技術	環境負荷の少ない循環型林内マルチング技術	資材の種類別の適正マルチング厚と雑草抑制効果、植栽木への影響、マルチング材の土壌への還元分解速度を明らかにし、適正なマルチング技術の開発を行う。	・林内にチップの種類、形状、敷き込み厚さの異なる試験区を設け、雑草抑制効果と樹木への影響を調査する。 ・林内の照度別試験区で分解速度を測定する。	15	19	C	他の研究課題「木質バイオマス循環利用モデルの開発」と統合し、活用事例の一つとして継続調査すべきである。	着実に研究を進めてきたと考える。他の研究課題「木質バイオマス循環利用モデルの開発」があるとなれば、たしかに統合が必要であろう。	予算要求について ・「木質バイオマス循環利用モデルの開発」と統合して実施することから、要求しない。 手法等について ・活用事例の一つとして、広葉樹材・樹皮混入チップによる厚さ別雑草抑制効果を、農業総合研究センター(仮称)敷地内で継続調査する。
2	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	公益的機能増進を目的とした多様な森林造成・管理技術の開発	海岸マツ林の施業体系と塩分捕捉効果	・海岸防災林での造成から更新に至るまでの適正密度管理の解明 ・海岸マツ林の防災効果を測定するための指標としての塩分捕捉量の把握	・相双、いわきの海岸マツ林に試験区を設定し、施業前、施業後の塩分捕捉量の変化を測定する。 ・試験区で、伐採率を変えながら調整伐を行い、相対照度と樹冠遮断率及び防風効果の関係を明らかにする。	15	19	C	施業体系確立のためには、研究方法を変更し、成立本数別に調査を行う必要がある。	調整伐を行えないとなれば、研究方法を変更が必要だと考える。	予算要求について ・調査手法を変更するが、同等の経費を要するため大幅な増減をせずに要求する。 手法等について ・伐採率を変えながら調整伐を行い調査する計画から、成立本数別に調査を行う手法に変更して実施し、目的を達成することとする。
3	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	山腹等緑化施工地管理技術の確立	木本類による法面緑化	法面緑化に有望な木本類の選抜と、草本類との種子配合比や適正な施工時期の把握。	林道法面で、木本類種子の配合比や時期を変えて施工し、発芽率や成長過程を比較調査する。	15	19	C	植生調査箇所を見直すなど、研究計画を変更して取り組む必要がある。	木本類の発芽本数が著しく少なく、生育調査を中止した箇所ができたことも含め、一定の研究結果は生まれており、研究は進捗していると考えられる。ただし成功の結果をなお提示できていないのは残念であり、配合比や施工時期、施肥管理等について、研究計画を見直して取り組んでいただきたい。	予算要求について ・調査手法を変更するが、同等の経費を要するため増減せずに要求する。 手法等について ・木本類の発芽本数が少なく、調査を中止した箇所もあるため、配合比や施工時期、施肥管理等について、見直して取り組むよう研究計画を変更して実施する。
4	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	病害防除技術の確立	ナラ類の集団枯損に関する防除技術の開発	ナラ類集団枯損を抑制しナラ類資源を保護する。	・カンノナガキウムシの効果的な駆除手法の開発 ・カンノナガキウムシの成虫発生抑制技術の開発	15	19	B	従来より改良された防除法が見いだされたが、更に簡便な手法の検討が必要であるため、継続して取り組むべきである。	着実に成果を生んでおり、継続して取り組むべきと考える。	予算要求について ・新規関連課題の取り組みを見送り、現計額どおりに要求して重点的に実施する。 手法等について ・被害の拡大が予想以上に早いことが確認されており、より簡便な防除方法を開発する必要があることから、継続的に実施することとする。
5	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	食用きのこ生産技術の開発	野生きのこ人工栽培技術の確立	サケツバタケ・ツチグリ等県内に自生し、食用とされ、特産品化の要望の高い野生きのこ類について、その生態を明らかにするとともに、人工栽培法を検討し、技術の確立を図る。	食用野生きのこの採取食用きのこを県内にて採取し、胞子及び子実体分離により培養可能な菌株とし、試験に供する。 生理・生態調査食用野生きのこの生理及び生態を調査する。 栽培法の検討培地に用いる木紛、栄養剤、それらの混合割合、培養温度、培養期間等の栽培条件を明らかにする。	15	19	B	栽培技術を確立したきのこは随時試験を終了し、その他の有望なきのこに研究対象を移行することで、栽培可能な野生きのこの多様化が期待できる。	農家・農業の未来のために期待します。人工的に栽培をしたかぶの食味についてもご検討いただきたい。	予算要求について ・シーリングにより減額する。 手法等について ・新たな野生きのこの栽培技術を中心に取り組んでいくこととする。
6	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	県産針葉樹材の高付加価値化技術の開発	支柱、杭木等の防腐処理技術の開発	安価で耐久性の高い木製支柱を開発し、土木事業における木材利用の推進と、県産間伐材の需要拡大を図る。	地際部を中心とした簡易な防腐処理の加工手法を検討し、木製支柱製品の試作と耐久性の評価を行う。	16	18	C	防腐剤注入性の改善については、カラマツに限定して効率的に実施する必要がある。	防腐処理による耐久性の向上は環境に優しい技術開発として必要であると思うが、使用用途や環境条件を明確にして耐久性を評価する必要がある。	予算要求について ・調査事項を減らすことにより減額する。 手法等について ・カラマツ材の防腐剤注入性改善を重点的に行う。また、土木資材として多く流通している丸棒加工材について、木材腐朽性に特に影響を及ぼす多湿条件下を想定した室内促進腐朽試験を行い、防腐処理剤の耐久性(腐朽性)を評価する。